

きこえとことば通信

令和7年(2025)3月
小金井第二小学校
こだま学級
Tel.042-385-3327

今回で今年度最後のきこえとことば通信となります。この1年間で子供たちは、大きく成長しました。通級の授業では、その1年間の頑張りや成長を振り返り、学習のまとめをしているところです。子供たちの成長を認め、自信をもって新年度を迎えられるようにしていきます。

3月末で6年生3名を含む、13名の子供たちがこだま学級を巣立っていきます。卒業・退級されても、こだま学級の職員一同は、ずっと皆さんのことを応援しています。通級を継続される方は、来年度もよろしくお願いたします。今日まで、温かいご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。

全体グループ学習～卒業を祝う会～

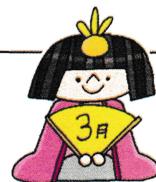


3学期は、こだま学級を卒業する友達をみんなでお祝いします。
好きなことや頑張ったことを発表したり、ゲームを通して交流したりしながら、楽しい時間にしましょう！
今年度最後のグループ学習です。ご参加お待ちしております。

日時：3月5日(水) 15:15～16:30 (受付 15:00～)
場所：こだま学級 プレイルーム

3月

★3月・4月の予定★



- | | |
|----------|-------------------------------------------------|
| 3月 4日(火) | 3学期 個別指導終了 |
| 3月 5日(水) | 全体グループ学習(15:15～16:30 @こだまプレイルーム) |
| 3月12日(水) | 吃音グループ学習(15:00～16:30 @こだまプレイルーム) |
| 3月19日(水) | きこえグループ学習(15:15～16:30 @こだまプレイルーム) |
| 4月14日(月) | 保護者会 10:00～11:00
*学級説明・担任紹介・通級日時と担当者をお伝えします。 |
| 4月18日(金) | 1学期 通級指導開始 |

【お知らせ】

令和7年度の通級予定者は、クラスと担任の先生が分かりましたら、こだま学級まで、お電話にてお知らせください。同時に、4月の保護者会の出欠についてもお知らせください。

難聴について学校・家庭でできる支援



1. 難聴とは

難聴は、聞こえにくい状態を指し、大きく分けて感音性難聴と伝音性難聴があります。程度は軽度から重度まであり、片耳だけが聞こえにくい「片耳難聴」や突然聞こえにくくなる「突発性難聴」、また高齢による「老人性難聴」などがあります。聞こえにくさを補うためには、補聴器や人工内耳が有効で、これらは年々技術が進化し、Bluetooth 機能を使った音楽や電話の音をダイレクトに飛ばすこともできます。さらに、デジタル補聴援助システムは、学校などの集団生活で有効で、先生の声がダイレクトに補聴器や人工内耳に届く仕組みです。

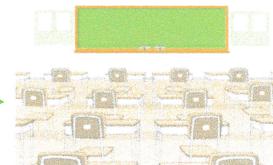


2. 滲出性中耳炎や片耳難聴の子供たち

滲出性中耳炎は、子供に多く見られる病気で、鼓膜内に液体が溜まり、聞こえが悪くなる状態です。この状態は軽度難聴に近いので、個別の会話では困りませんが、集団の中で聞き取れない言葉や、クラスのざわめきの中では困難を感じる場合があります。また、片耳難聴の子供は、音の方向をつかむのが難しく、これも困難の一つです。これらの子供たちは補聴器が必要ない場合もありますが、聞こえにくさを補うためには、周囲の配慮が必要です。



椅子の騒音を抑えるために、
椅子の足にテニスボールをはめるのも
効果があります！



☆学校や家庭でできる工夫

- **座席の配置:** 座席を前から2～3番目や、聴力の良い側にする。
- **静かな環境での話:** 大事な話をする際には、静かな場所で重要なポイントを繰り返す。
- **聞き返ししやすい雰囲気:** 気軽に聞き返しても良いことを伝え、聞きやすい速さで話す。
- **視覚的なサポート:** 文字や絵、写真を使って理解を促進する。

3. 難聴理解授業

難聴の子供たちが学校生活での困り感を減らし、友達とスムーズに過ごすための支援も行っています。

- **難聴の聞こえ方を学習:** 音が歪んで聞こえることを体験したり、視覚的に学んだりする。
- **難聴児の困難を伝える:** 他の子供たちに、難聴児の困難さを理解してもらう。
- **友達としてできることを考える:** 友達同士でどのように工夫できるかを考える。



大人数の話は聞き取りづらい。

後ろからの声は聞こえにくい。

同時にしゃべらないようにしましょう。

前から話しかけよう。



これらの取り組みを通じて、難聴がある子供たちの理解が深まり、より良い学校生活が送れるようになることを目指します。

進級することにより、周りの環境も大きく変わる可能性があります。難聴に限らず、吃音なども理解授業を行うことで環境調整を行うことができます。担当者と相談しながら、必要な支援を行っていただけるようにします。ぜひご相談ください。